View metadata, citation and similar papers at core.ac.uk
brought to you by CORE
provided by Academic Research Repository at the Institute of Developing Economies

書評 Christian Henriot, Prostitution and Sexuality in Shanghai: A Social History, 1849-1949

著者	福士 由紀
権利	Copyrights 日本貿易振興機構（ジェトロ）アジア経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) http://www.ide.go.jp
雑誌名	アジア経済
巻	44
号	2
ページ	86-89
発行年	2003-02
出版者	日本貿易振興会アジア経済研究所
URL	http://hdl.handle.net/2344/00007815

Christian Henriot, Translated by Noël Castelino,

Prostitution and Sexuality in Shanghai: A Social History, 1849-1949.

Cambridge: Cambridge University Press, 2001, xviii+467pp.

福士由紀（ふくしゆき）

I

本書は19世紀半ばから20世紀半ばまでの上海における売春とそれをめぐる諸状況の分析から近代上海社会の変化を照射した社会史研究である。本書は1997年に出版された *Belles de Shanghai: Prostitution et secaulité en Chine aux XIXe-XXe siècles* の英語訳版であり，著者 Christian Henriot 氏はフランスのリヨン第二大学中国史学科教授，同大学東アジア研究所所長である。著者は本書以前に1927年から37年の南京国民政府時期の上海市政府の行政をまとめた *Shanghai 1927-1937: Municipal Power, Locality, and Modernization*（Berkeley: University of California Press, 1993）を発表しており，その研究関心は一貫して上海という近現代中国を代表する都市におかれている。

II

本書の構成は以下のようになっている。

序　論　売春とセクシュアリティ――歴史的再考――

第１部　高級娼婦――エリートのための売春婦，売春婦のエリート――

　第１章　19世紀から20世紀の高級娼婦――ある世界の終わり――

　第２章　輝かしくも悲惨な生活

第２部　売春市場とマス・セクシュアリティ

　第３章　高級売春宿からマス・セクシュアリティへ――1849年から1949年における一般の売春の急増――

　第４章　「準売春」（1920年代～1940年代）

　第５章　20世紀の売春――社会人類学的小論――

　第６章　セックス，受難，暴力

第３部　売春の空間と経済

　第７章　上海および中国における女性市場

　第８章　都市空間における売春施設

　第９章　売春施設の組織と経営

　第10章　セックスの経済

第４部　上海での売春廃止の試みと売春規制

　第11章　疾病防止と道徳の維持（1860～1914）

　第12章　上海における廃娼運動（1915～1925）

　第13章　国民党と中国的規制主義（1927～1949）

　第14章　売春婦救済施設（1880～1949）

結　論

以下，各章の内容を紹介し，若干のコメントを付す。

序論では本書全体の課題が設定されている。すなわち，19世紀半ばから20世紀半ばの上海社会の変化・発展を，売買春とそれをとりまく諸状況を通して照射することが本書のねらいであり，そのためのアプローチ方法として，著者は，売春を女性史として，あるいは書き手によって創造された言説として検討するのではなく，中国人世界のひとつの社会現象として捉え，売春研究を総合的歴史的な中国社会の検討へと結び付けることを目的とする，としている。

第１部は高級娼婦についての議論である。第１章では19世紀半ばから20世紀半ばまでの上海における高級娼婦のさまざまな形態およびその実態が検討されている。19世紀，エリートや文人に，必ずしも性的関係だけではない娯楽を供給していた高級娼婦は，文人エリートから商人層へという顧客層の変化に伴

う需要の変化，および女性の社会進出に伴い，その存在意義が徐々に失われ，次第に一般の売春婦に同化していったことが示される。第2章は高級娼婦のライフサイクルが取り上げられ，その生活環境や生活状態，性的振る舞い，顧客との関係，結婚や加齢・自殺・病気などによる娼婦生活の終結，高級娼婦による政治活動や慈善活動への協力，マスメディアの発達に伴う娼婦文化の大衆化などが検討されている。ここでは高級娼婦の生活は必ずしも売春婦＝不幸というステレオタイプに合致するものではないこと，19世紀中高級娼婦はエリート文化のひとつとして君臨していたが，20世紀以降，エリートの再編，経済の商業化に伴い消費の対象へと変化していったことが明らかにされている。

第2部は高級娼婦よりも巨大な市場を形成していた一般の売春婦についての議論である。第3章では19世紀半ばから20世紀半ばまでの一般の売春婦の諸形態と実態が検討されている。ここでは，さまざまな売春の形態，売春婦の出身地，売春婦の末路などが紹介され，当該時期の売春世界は必ずしも高級→下級というヒエラルキーを形成していたのではなく，さまざまな需要に応じた売春が存在していたが，それは支払いに直接的に応じたサービスを求める消費者社会の発展に伴って，他の要素を排除し，セックスのみを売る性化の傾向にあったことが論じられている。第4章では第1次世界大戦後発生した新しい形態の売春，すなわち売春を標榜してはいないが実際には売春も行うウェイトレス，マッサージ師，ダンサーといった「準売春」が取り上げられ，これらは経済・社会生活のあらゆる分野における近代化を表すものであると同時に，中国社会における性に対する感覚の変化を表すものであったことが示されている。第5章は「誰が売春婦だったのか？」という問いの下，上海での売春婦の人数，出身地，年齢構成，教育レベル，売春婦となった理由，自己認識，その末路についてのデータが提示され，多くは貧しい家庭の教育レベルの低い若い女性であるという一般の売春婦認識と一致するものであるが，売春婦の出身地の分析から，比較的商業化の進んだ地域の出身者にとって上海は吸引力を持っていたことなどが示されている。第6章ではセックス，疾病，暴力といった売春と不可分の諸問題が論じられている。ここでは売春宿で供給されるさまざまなセックスの有り様，売春婦の性病感染状況と各当局による性病防止対策，女将や売春宿経営者による虐待とそれに対する刑罰，売春宿内での犯罪や騒動が検討されている。

第3部は売春宿を中心として同心円状に広がる売春世界の地理的空間の各位相が検討されている。この同心円空間の最も外側に位置するのが，上海で売春婦となる女性の貯蔵地である女性の出身地域であり，この出身地域から上海への移動，その主要な要素であった人身売買市場について扱ったのが第7章である。ここでは誘拐・周旋・人身売買グループの実態，被害者の状況が詳細に検討され，女性が売春入りする形式（抵当・売却など）はさまざまであるが，女性の社会的低地位がこうした人身売買の主要な原因であったことが示される。第8章は同心円空間の中間に位置する都市空間と上海の売春の地理的特徴が議論されており，城内から租界へという経済中心地の移動に伴い売春宿も移動したこと，また特定の小道（里弄）への売春宿の集中現象が見られたが，これは顧客に対して限られた場所でさまざまな形態の売春を選択する余地を与えると同時に，公衆の目に触れず売春を行うという特徴を持つものであったとされる。第9章は同心円空間の中心である売春宿について扱っている。ここでは，売春宿の規模，高級娼婦・売春婦の収入，客層，女将・売春宿経営者の実態，さまざまな売春宿スタッフの役割が描き出され，売春宿では洗練された労働配分が行われていたこと，売春宿は男性が公的空間を支配している中国社会において例外的に女性が中心となる空間であったことが示される。第10章はさまざまな施設で展開されるセックスの経済が論じられ，売春宿のコスト，各サービスと収入，スタッフやメイド，女将，娼婦，客からなる売春宿内での金の流れが提示され，売春婦＝搾取される存在というイメージは固定的なものではなく，その売春婦が売春を行っている状態（借金の抵当として，売却されて，自由意思によって等）によって状況が異なることが明らかにされて

いる。

第４部は，1869年から1949年の間の各当局による売春規制政策，施策が扱われている。第11章は1860年代から1914年までのフランス租界と共同租界の売春規制政策が中心的に取り上げられている。ここでは19世紀，欧州での売春婦の登記・性病検査システムに影響を受け，上海でも性病予防を意図する医師・衛生担当者により外国人を顧客とする売春婦への登記・性病検査，性病医院の設立が行われるが，２つの租界，華界とに分割された行政状況，性病問題に反応を示さない中国人居民といった障害のために成功しなかったことが示される。第12章では，1915年から25年の主として共同租界での廃娼運動と廃娼政策が扱われ，18年にアメリカの影響を受けて組織された道徳促進会は共同租界工部局へのさまざまな働きかけを通して20年には段階的な売春宿廃止政策が実現したが，結果として共同租界外，特にフランス租界への売春宿の流出や共同租界内でのヤミ売春の増加を促したのみであったこと，この政策の失敗のひとつの原因は道徳促進会の原動力であったピューリタニズムが中国人社会には受容されず議論が限定的なものにとどまったことにあるとの分析がされる。第13章では，1927年から37年の南京国民政府期，38年から45年の日本占領期，45年から49年の内戦期のそれぞれの当局による売春に対する態度と施策が検討されている。ここでは南京国民政府は売春を中国の国家再建のための障碍と見なしたが，売春の廃止・減少政策は真剣には行われなかったこと，日本占領期に日本側は日本国内で行われているのと同様の売春管理を企図したが，傀儡上海市政府はこれを実行する能力に欠けていたこと，内戦期上海市政府は増大する売春に対して，登記・性病検査を義務付け，当面は売春管理を行い将来的には廃止しようとしたが成功には至らなかったことが明らかにされている。第14章は売春婦救済施設としてプロテスタント女性宣教師によって組織された済良所（The Door of Hope）と中国人商人によって組織された中国婦孺救済総会（Anti-Kidnapping Society）の２つの組織の実態，活動内容が詳細に検討され，済良所が売春を社会悪と見なし宗教的救済を理念としていたのに対し，中国婦孺救済総会は売春を社会問題と見なし物理的に個人を救済するというプラグマティックなものであったこと，その救済方法は両者とも結婚や帰宅を通して女性を家族やコミュニティのつながりの中に戻すというものであったことが示される。

結論では，以上の売春と売春をめぐるさまざまな現象は当該時期の上海社会の変化を反映していること，すなわちこの時期の売春の変化は「性化」と「商業化」という２つの特徴を持つが，これは顧客の変化や中国社会の性に対する態度の変化を如実に反映していること，また売春婦を通して見た中国社会における女性の有り様等についての検討がなされている。

Ⅲ

本書の最大の特徴は，売春を現実の社会現象として捉え，近代上海という社会全体を映し出す鏡とし，これを通して近代上海の社会史を描き出すというその方法にあると言えよう。本書のフランス語版が出版された1997年，Gail Hershatter 氏によって同様のテーマを扱った研究書（G. Hershatter, *Dangerous Pleasures*. Berkeley: University of California Press）が出版されているが，これが「売春に関する言説」に焦点を当て，言説の織物として近代上海の売春を捉えているのとは対照的である。著者 Henriot 氏自身は Hershatter 氏の方法論に対して批判的であり，「歴史研究において“事実への意志”を放棄することは，あらゆる種類の偽造，結局は過去の事象に対する反逆へとつながる扉を開くのと同じことである」（p.xv）として，本書はあくまで売春婦達の現実の生を扱う実証研究であるとしている。

そのための方法として，本書では，各時期の上海市政府各局档案史料，共同租界・フランス租界档案史料，フランス外交史料，国際連盟史料，中国婦孺救済総会档案史料といった豊富な一次史料および新聞，雑誌，当該時期の知識人によって書かれた各種書物といった広範な史料群が扱われている。こうし

た地道な史料の積み重ねと丹念な史料批判によって，本書は売春婦達の生と売春をめぐるさまざまな事象を現実のものとして描き出し，近代上海というさまざまな民族・階層・行政主体が入り乱れた都市の全体像とその変遷を描き出している。

本書で明らかにされた内容の中にはHershatter氏の見解と重複する点もあるが，Hershatter氏が描き出した売春婦の上級／下級が明確に区分されたピラミッド型の「売春ヒエラルキー」が実際にはむしろさまざまな売春が折り重なって存在し，ある点で交差する円状のようなものとして捉えるべきである，という近代上海の売春に対する新たな視点も提示されている。この売春イメージの違いもやはり2人の方法論の違いに起因する。Hershatter氏が売春言説の書き手の秩序認識をひとつの現実として捉えているのに対し，著者はさまざまな史料の比較検討を通してより平面的で入り組んだ売春の有り様を描き出している。また第3部の売春の空間的問題を扱った部分では，豊富な統計の処理，地図作製作業などを通して言説研究によってでは得られない実際の都市空間の変遷が描き出されており興味深い。

最後に技術上の問題ではあるが，本書には中国語グロッサリーが付いておらず中国史研究書としてはやや不親切であるという印象を受けるが，これは本書の価値を損ねるものではない。

本書は近代上海の社会史研究として価値を持つだけでなく，上述のHershatter氏の研究とあわせて，歴史学の方法論に関する議論の貴重な素材ともなるであろう。

（一橋大学大学院社会学研究科博士課程）